

2019年度 東京ホームタウン大学
分科会1

「住民」と「専門職」による 協議の進め方

事例紹介③

様々な活動が生まれる場づくり

～連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会 10年間の取組みから～

多摩市 連光寺聖ヶ丘地域福祉推進委員会 委員長 濱田 清吉
多摩市社会福祉協議会 まちづくり推進担当 宮原龍太

発表の流れ

① 多摩市の概要

② 地域福祉推進委員会について

③ 連光寺・聖ヶ丘
地域福祉推進委員会について

④ 事例紹介

①多摩市の概況(R2.1/1時点)

人口
148,823人

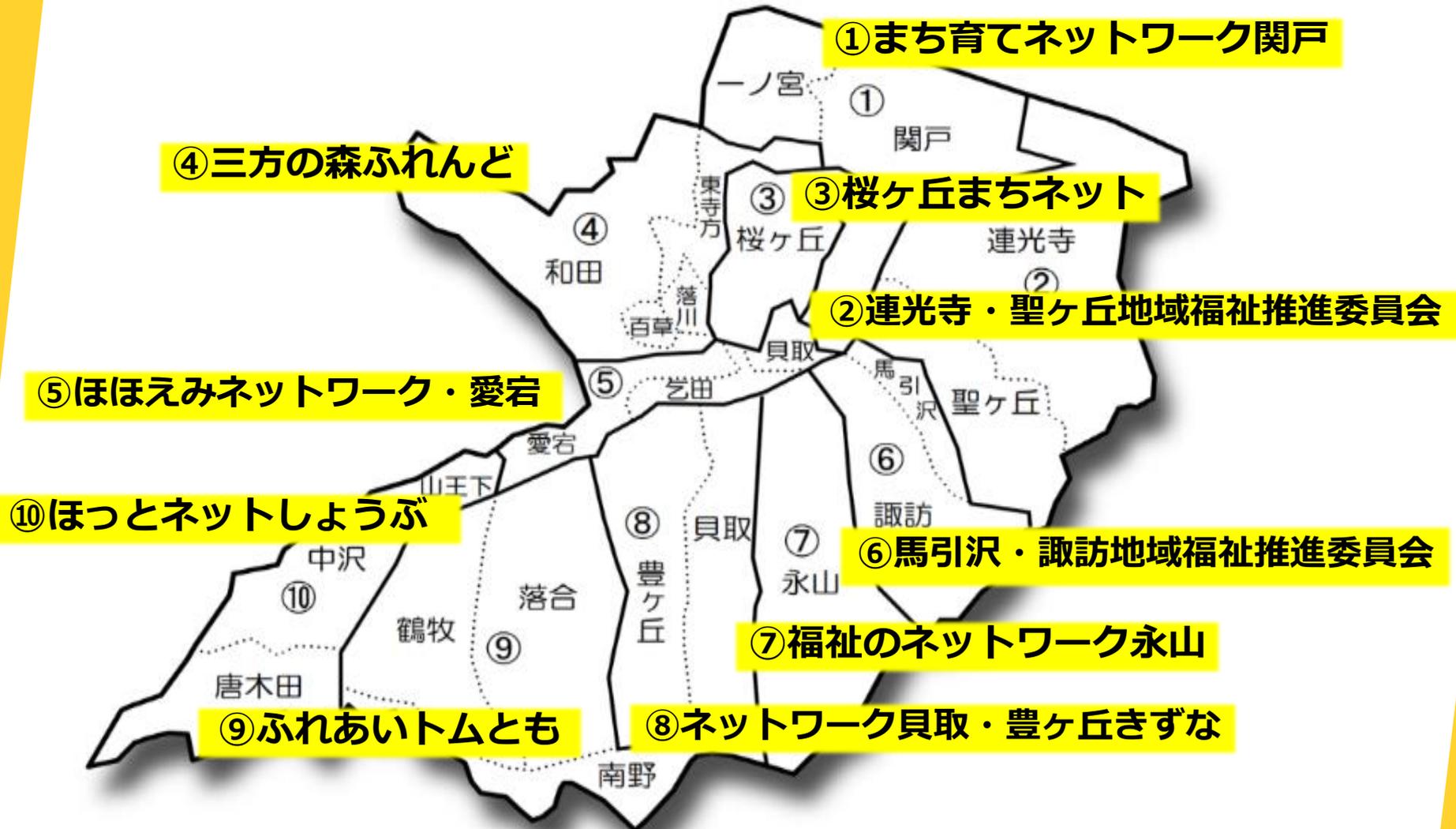
高齢者人口
42,343人

高齢化率
28.45%



②地域福祉推進委員会について

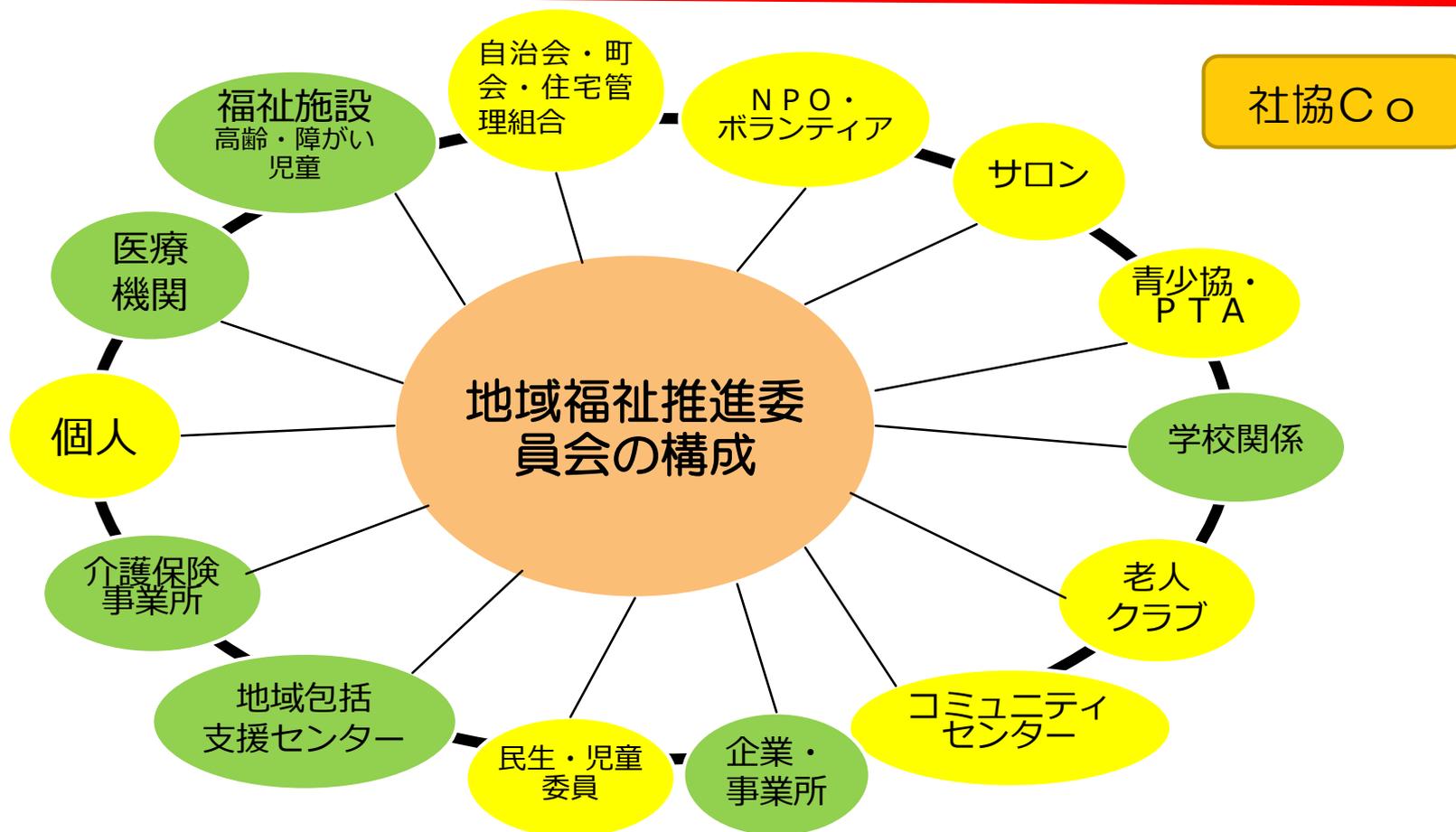
多摩市の総合計画で定められている10のコミュニティエリア毎に地域福祉推進委員会が立ち上がっています。



②地域福祉推進委員会について

住民と専門職が自分たちの住む「まち」について、「情報共有」→「課題発掘」→「解決に向けた仕組みづくり」を行う、住民主体の委員会です。

委員会の運営は、世話人（コアメンバー）を中心に行います。



連光寺・聖ヶ丘地域福祉推進委員会について

設立：平成20年 7月

全体会：6回／年

世話人会：11回／年

※今までの取り組み

- ◆ H20年度 子どもの居場所について
- ◆ H21年度 高齢者の居場所について
- ◆ H22年度 地域の課題について
- ◆ H23年度 講座・広報・サロンについて
- ◆ H24年度 部会活動の充実
- ◆ H25年度 見守りにについて
- ◆ H26年度 集会所の活用について
- ◆ H27年度 大テーマ「世代間交流」を進めるために、4グループに分かれて活動
- ◆ H28・29年度 4グループの活動を拡げる
- ◆ H30年度 自治会Gを追加し5グループの活動



地域福祉推進委員会の様子

連光寺・聖ヶ丘
地域福祉推進委員会

高齢者支援グループ

子育て支援グループ

学校連携グループ

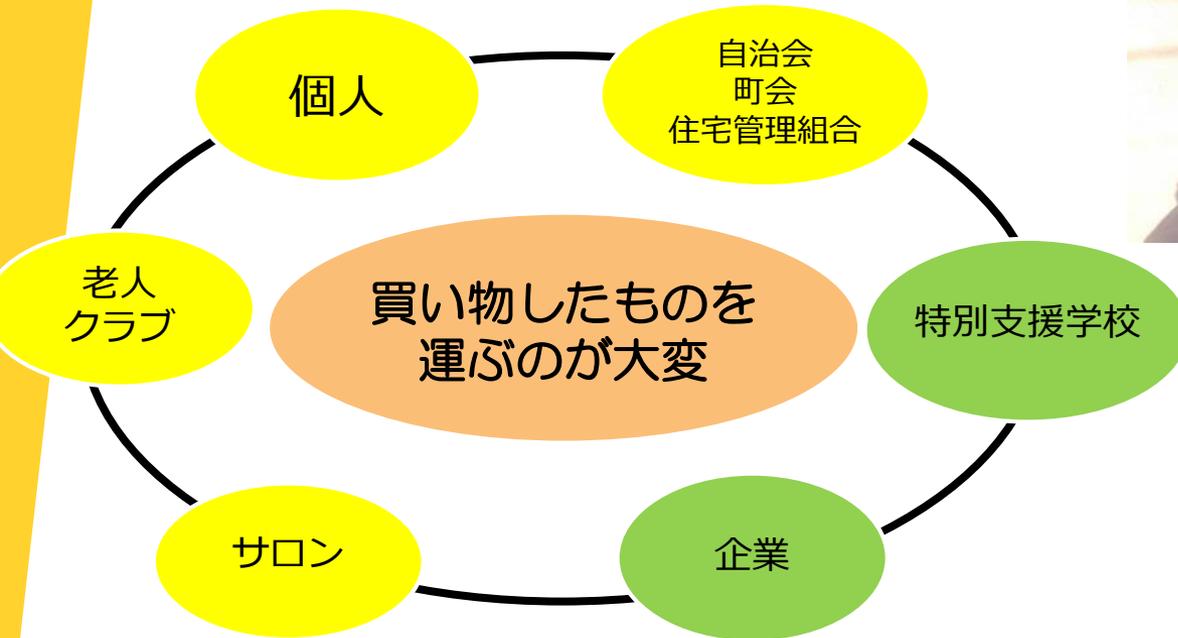
自治会グループ

イベント企画グループ

イメージ図

住民のアイデアから活動につながった事例 ～特別支援学校の生徒による買い物支援～

社協C○



- ①委員会内で地域課題が出る
- ②委員会内で課題解決に向けたアイデア出し
- ③地域内に出店をしているスーパーの本社へ
- ④住民・学校・企業・社協でミーティング
- ⑤委員会内でPR、地域全体の取り組みを確認
- ⑥現在は学校主体で授業で取り組まれている

地域福祉推進委員会がもたらす効果

☆ **定期的(2ヶ月に1回)**に**住民**と**専門機関**が
情報交換・活動報告をするためつながりが
強化された。
ニーズに応じて連携し、対応できる体制ができた

- ① 社協地域福祉C oは、「専門機関を活かす専門家」として地域住民の抱える小さな課題も受け止め、専門機関へのつなぎ役を担っている。
- ② 専門機関(職員)主導ではなく、住民(世話人)を中心に情報交換が積み重ねられ、住民自身が地域課題を認識できるようになった。
- ③ 住民自身が捉えた課題をベースに**住民**と**専門機関**が解決の仕組みづくりを検討する体制ができた。

☆ この他にも「子どもまつり」や「困りごとふくしポスト」など
様々な活動が生まれています。